

喪失の中で、
私たちはどう生きるか——

ロスと グリーフを めぐる対話

登壇者

川島大輔（かわしま・だいすけ）

中京大学心理学部教授。2020 年より現職。博士（教育学）。専門は、死生心理学、死生学、自殺予防学。

渡邊照美（わたなべ・てるみ）

佛教大学教育学部准教授。2013 年より現職。博士（教育学）。専門は死生心理学、生涯発達心理学、教育相談。

浦田 悠（うらた・ゆう）

大阪大学全学教育推進機構准教授。2023 年より現職。博士（教育学）。専門は死生心理学、生涯発達心理学、ポジティブ心理学、大学教育学。

近藤（有田） 恵（こんどう・ありた・めぐみ）

関西医科大学医学部行動医学教室主任教授。2025 年より現職。博士（人間・環境学）。専門は、死生心理学、行動医学、医療倫理学。

大河内大博（おおこうち・だいはく）

浄土宗願生寺住職／訪問看護ステーションさっとさんが願生寺 共同代表・チャプレン。専門はスピリチュアルケア、グリーフケア。

参加者特典

●『ワードマップ ロスとグリーフ——うしなうことの心理学』が特別価格に！

●定価 3,190 円（税込）→ 特別価格 2,711 円（税込・送料無料）

●購入サイト <https://forms.gle/RGzuQGPouqljAg79>

●購入期限 2026 年 9 月 24 日（木）

●お届けは発売日（8 月 25 日）以降になります（予約注文可）。

●ご注文からお届けまで 1 週間ほどかかります。



開催日時

2026 年 9/20（日）

11:00～12:30

（開場 10:50）

参加費無料／定員 500 名／入退室自由

申込方法

◎認定心理士の会会員・日本心理学会会員
優先申込期限

2026 年 7 月 27 日（月）まで

◎通常申込期間（どなたでも参加 OK）
2026 年 7 月 28 日（火）～9 月 14 日（月）

◎参加申込サイト

<https://psych.or.jp/authorization/ninteinokai-book/>

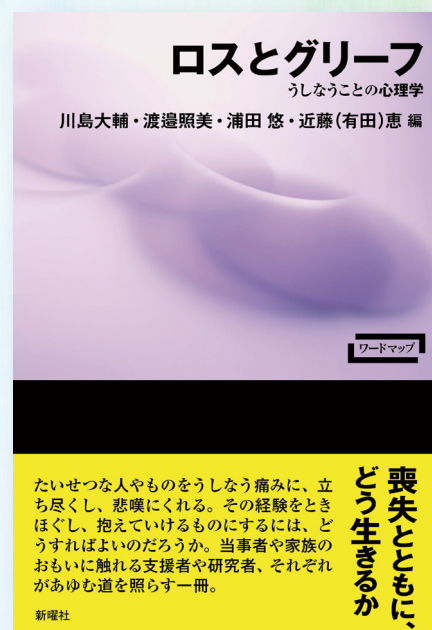


主催

公益社団法人日本心理学会 認定心理士の会
株式会社 新曜社

お問い合わせ先

公益社団法人日本心理学会事務局
jpa-ninnokai-event@psych.or.jp



超高齢多死社会、相次ぐ自然災害、パンデミック、戦争など、
死や喪失はごく身近なところにあります。
とくに大切な人やものをうしなった後をいかに生きるかは、
私たちにとって切実な課題です。
同時に、喪失はうしなう前であっても、
例えば病いや老い、関係性の変化、死の予期のなかでも経験します。
この講座では、うしなうことと生きることに関する研究動向を概説し、
グリーフケア、スピリチュアルケアに長年携わってきた
実践者との対話を通じて、
喪失の中で、“わたし”をいかに生きなおすのかについて、
ともに考える機会にしたいと思います。[登壇者一同]

プログラム

1 開会のごあいさつ・登壇者紹介 (11:00 ~)

2 企画趣旨説明 川島大輔

3 各章の見どころ

第1章 うしなった後を生きる 渡邊照美

人は大切な人やものをうしなってもなおその後の人生を生きていかなければなりません。喪失と共に生きていく多様なありようと、それを支えるかかわりについて考えます。

第2章 死をおもう 浦田 悠

人が自らの死や大切な人の死をおもうとき、不安や恐怖を抱きつつも、時に死について語り合い、いかにして「生きる意味」を再発見していくかという実存的な変容に迫ります。

第3章 喪失の中で、わたしを生きなおす 近藤（有田） 恵

人生の限りある時間と、死という避けがたい現実にあふれるとき、「わたし」はどう揺らぎ、どう編みなおされるのでしょうか。喪失のただ中で生きなおされる「わたし」の過程を考えます。

4 コメンテーターからの質問 大河内大博

5 編者からの応答と登壇者間の自由討議

6 聴衆からの質問への応答

7 まとめの一言 登壇者 (~ 12:30)